

第5回 ブロックデザインコンペ 2017

- あなたの感性で安心・快適な空間を -

1 ミナチガウ アンシン カイテキ ドウシタモノカ

安心・快適の対象は多種多様で、防犯性や対候性、プライバシーやバリアフリー等、その度合も人それぞれです。常に目まぐるしく更新される現代社会において、“モノ”でその都度対応をすることはイタチごっこになり状況の改善が望まれません。本計画では「安心」や「快適」の根幹は「人の繋がり」にあると捉える事で、全ての共通解になりえる“コト”が起こる空間を提案します。

2 人と人がくつき向き合い合える場所をつくる

2960mm×2960mmのCBボックスを3つ並べた形が1区画になります。適度な距離を保ちつつ隣り合うことで生まれる「辻」のような空間には、藤棚やシンボルツリーが木陰を落とし、それぞれの暮らしや賑わいが混ざり合います。この藤棚のかかる空間は外界との境界線になりながら、同じ屋根の下で暮らしていることを意識できるホールような半屋外空間です。

自らの居場所であり、他者の居場所でもあるという曖昧な環境は警戒心を和らげ、交流を生みコミュニティを醸成するきっかけをつくります。



3 集まる・集める事で起こる色々なコト

(1) 互いに見守り見 (2) 異常気象が続く (3) 建物が集まること (4) 建物が増殖
守られる関係性がで 昨今、災害時の助け とで様々な使い方が していくことで
できること、孤独死 合いが生死を大きく 可能となる。集まる 快適性をもつ小
の防止や日常の防犯 分けると言います。 ことで生まれるコモ さいな都市のよう
対策が自然 お隣さんは ンスペース な場所が
発生的に可 防災の要に は空間を豊 できあが
能となる。 になります。 かにします。 ります。

4 様々な用途に対応できる建物の使い方

case I：独居老人のための集合住宅

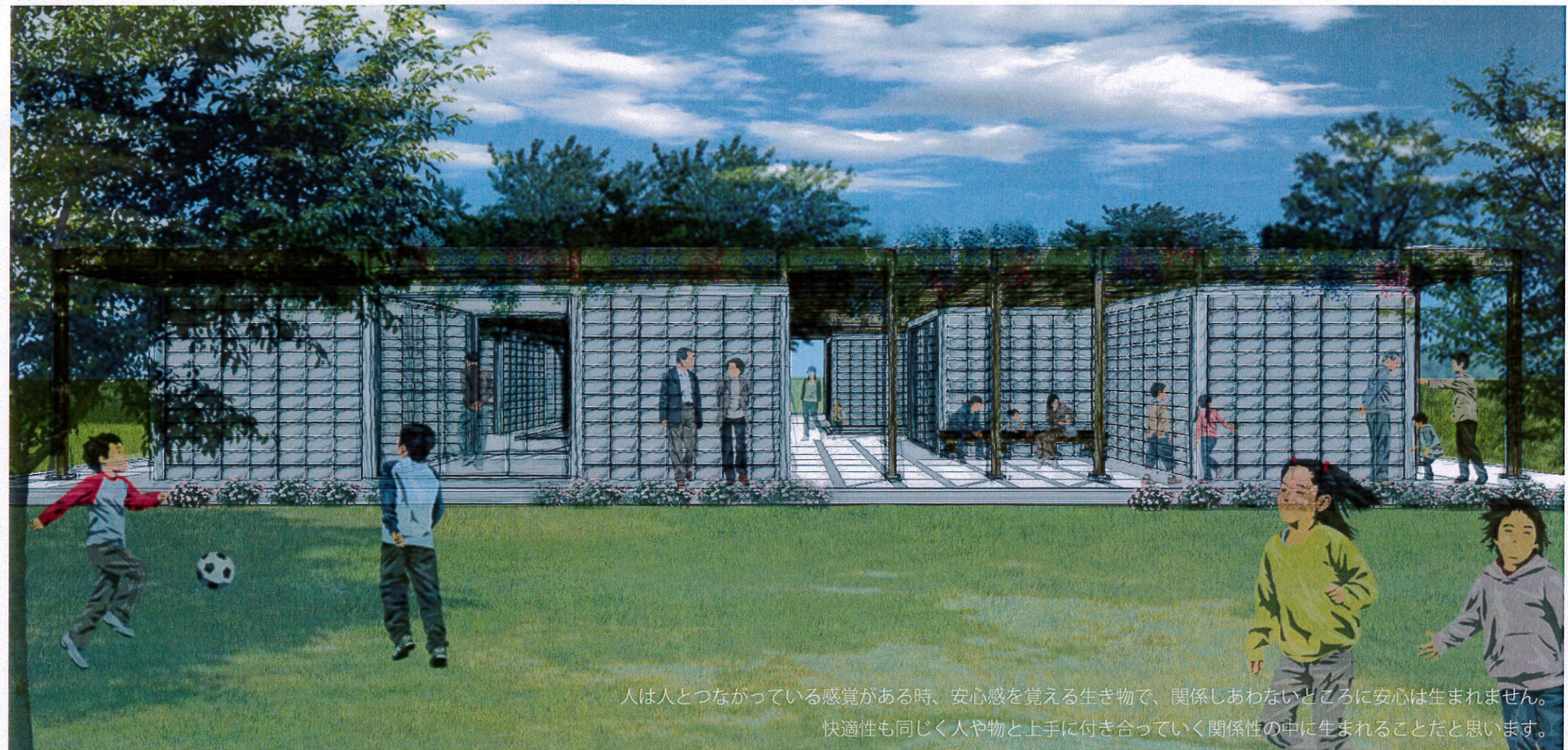
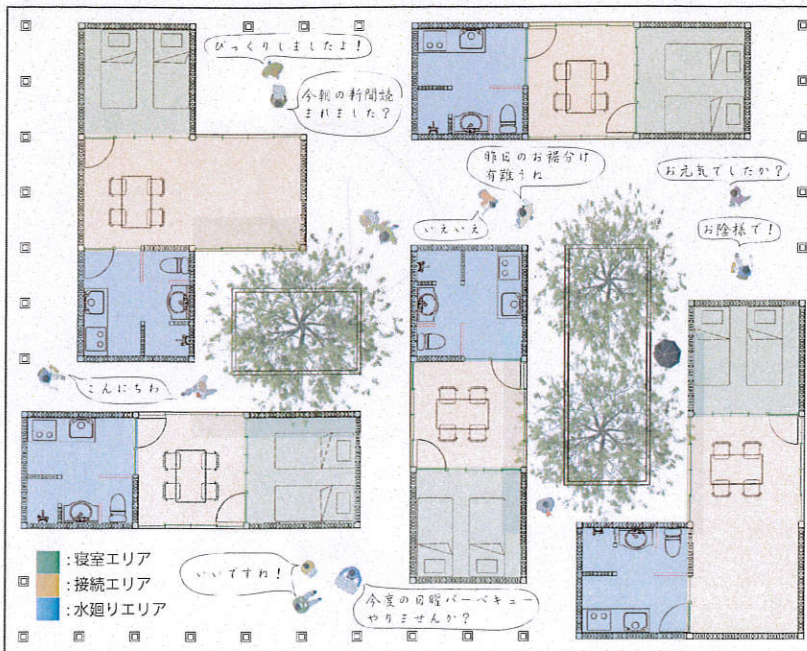
高齢化社会を迎えている昨今、お年寄りの暮らしやすい環境を考える事は大切なテーマと考えます。ここでは、無理のない必要最小限のスペースで独居老人等が集まり、互いに目の届く距離感で支えあい関係しあいながら生活できるコミュニティ空間となります。

case II：小規模集合型店舗

1区画(2960×2960)から個別で貸し出すことを可能とすることで、色々なお店が入る小さなショッピングモールのような場所になります。木陰になる建物間のコモンスペースは涼しげな休憩空間となったりイベントが行える空間となります。

【平面概念図】 No scale - 独居老人のための集合住宅になった場合 -

- ・延床面積：2.96 × 2.96 × 17 (個) = 148.95 m² ・建築面積：延床面積と同様
- ・屋根及びコモンスペースを覆うように藤棚を掛け、影を落としながら日射を遮ります。



人は人とつながっている感覚がある時、安心感を覚える生き物で、関係しあわないところに安心は生まれません。快適性も同じく人や物と上手に付き合っていく関係性の中に生まれることだと思います。



藤棚が覆う共有空間は、人が集い関係しあうことで心から安心できる快適な場所となります。様々な場所や状況に柔軟に対応できる建物は社会を豊かにします。